

# 地域デザインや新キャラクター提案

## 赤れんがまちづくり研究会

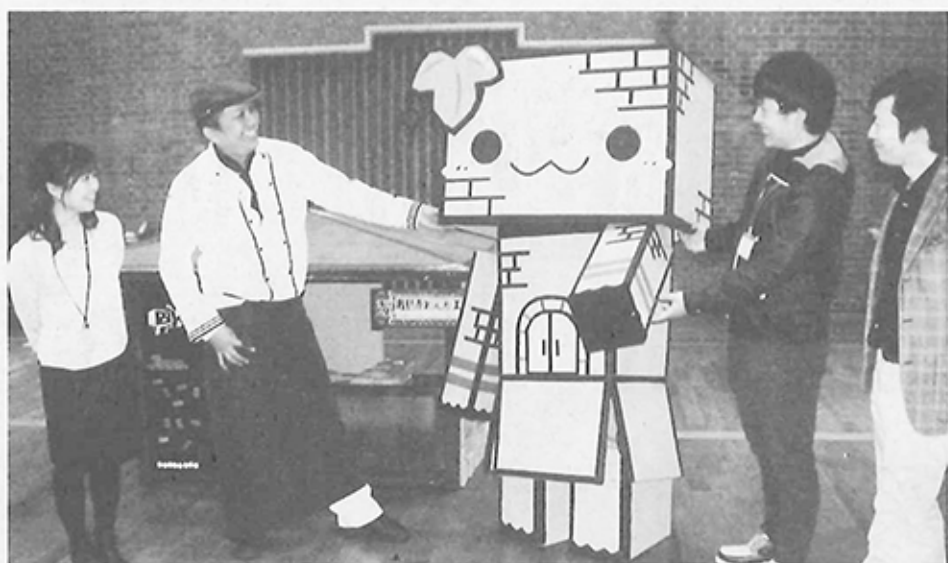
京都府立大の研究者や学生、舞鶴市民らでつくる「舞鶴赤れんがまちづくり研究会」の第2回成果報告会が、このほど北吸の赤れんがパーク・市政記念館で行われた。

とともに、赤れんがを特色にした舞鶴の活性化策を3年計画で検討している。

参加型で開かれた報告会では、赤れんがパークの倉庫4棟を

研究会は、市と連携協力包括協定を結んだ府立大が、地域貢献型特別研究の一環として昨年度に設置。研究代

表者を杉岡秀紀・府立大講師が務め、「政策づくり塾」で公共政策を学んだ市民や市職員らがオブザーバーの学生



研究会のメンバーたち。左後方はQBBを壁に貼ったミニキヨスク

東、西、大浦、加佐地区に振り分け、それぞれの特産品の販売などを行う「赤れんがエコミュージアム」の構想や、市民参加で地域をデザインする「赤れんがの街並み景観条例案」などが紹介された。

研究会の研究協力者代表で、喜多の建材販売会社「DIY ST YLE」社長の森本隆さん(42)が開発した、廃材などを利用して焼かずに成形する新しい赤れんが「QBB(クイック・ビルド・ブリック)」を使った工作体験ブースも設けられ、森本さんが学生のアイデアを基に作成したマ

スコットキャラクター候補の「レンガ」のお披露目や、手作りでQBBを壁に貼った高さ125センチの売店(ミニキヨスク)も発表された。

杉岡さんは「保存だけでなく『表現する赤れんが』をキーワードに研究を進めていきたい」と話していた。